

## ポータルサイト「ハーモニカ」の開発

### —カテゴリーの整理—

鈴木庸子（国際基督教大学教育研究所）

#### 1. はじめに

発表者は2013年より多言語・多文化環境の子どものためのポータルサイト「ハーモニカ」(<http://harmonica-cld.com/>)を開発している(鈴木、2015、鈴木、2016)。これは「外国人家庭、国際結婚家庭の子女など、家庭言語と学校教育言語等が異なる子どもの健全な言語形成のためには、母語を大事にするべきである」という主張を基盤に、その支援に役立つ情報を集めたリンク集である。リンク先が200件を超え、現在のカテゴリーだけでは使いやすさの面で不便が生じてきたため、カテゴリー内の情報の整理・分類を試み本発表でその結果を報告する。

#### 2. ポータルサイト開発の背景と内容

このウェブサイトは、多言語・多文化環境の子どもの健全な言語育成をめざしたワークショップ(「OBC/DRA 実践ワークショップ」<sup>1)</sup>)開催にあたり、参加者に対するサービスとして情報の更新や啓発の継続を目的に着想し、開発に至ったものである。多言語・多文化環境の子どものワークショップでは「CLD児(Culturally and Linguistically Divers Children、文化的・言語的に多様な背景を持つ子ども)」(Cummins、2001)と呼び、ハーモニカでは「国際結婚の子どもや海外に移住している子ども、マイノリティの子どもなど、家庭の中と社会で複数の文化・言語に接して成長する子どもを言い、国籍や文化的背景は問題ではなく複数言語環境にあることに着目した用語」と説明している。メインメニューは、CLD児である「子ども・学生」とCLD児に関わる「保護者」「先生」「ボランティア」「研究者」「ステークホルダー」の6カテゴリーである。

表1 メインカテゴリーと

掲載したリンク先の内容  
ユーザーを中心としたカテゴリー

分類やサイト内の構成は、カナダのオンタリオ州教育省やトロ

ント市教育委員会のウェブサイトを参考にした。「外国人住民も利用者と想定している」「啓蒙あるいは生涯教育、ノンフォーマル教育の視点がある」点で優れていると考えたためである(鈴木、

2012)。これらのウェブサイト  
は上記ワークショップ講師の中

『職業教育と教育工学』(中山・鈴木 2016) p. 150 [一部改]

島和子トロント大学名誉教授から「Don Valley East Ontario Early Years Centre (トロント市)」<sup>2)</sup>を紹介されて出会ったものである。

リンク先の情報はいくつかの方法で収集した。上記オンタリオ州教育省やトロント教育委員会の情報、ユネスコの情報、研究論文、図書資料は独自の調査によるほか、中島和子トロント大学名誉教授から多くの教示を得た。日本の行政機関による報告書、日本国内の地方自治体・NPOのウェブサイト、ウェブサイト上の教材は「OBC/DRA 実践ワークショップ」参加者からの情報、

年少者日本語教育・学習支援関係者が多くメンバーとなっているメーリングリストで紹介された情報を参考に、独自調査と個人的に提供された情報を加えた。リンク先の質の保証としては、行政団体、NPO 法人あるいはそれに匹敵すると認められる団体、研究機関と、それらの団体が管理する情報であること、CLD 児に関わる現場に有用だと判断したことを基準とした。

### 3. サブカテゴリー内の情報

サイト内の構成としてカテゴリー「子ども・学生」は学校種、「保護者」は子育ての段階、「先生」は教育活動の内容、「研究者」はリソース源、「ボランティア」は活動を支える情報の種類別にステークホルダーは地域と対象別にサブカテゴリーを策定した。このうち、「先生」（主に正規の教育機関の先生）と「ボランティア」（主にノンフォーマル教育の枠組みで CLD 児の母語・日本語・学習を支援）の 2 カテゴリーについて、リンク先情報を見直した。その結果、「先生」のサブカテゴリー「カリキュラム」には、教育実践の現場別に「国内」「海外」「国際」「継承語」の 4 分類、「優れた実践」は実践の特性別に「JSL」「アイデンティティ・テキスト」「その他」の 3 分類、「実践・教え方」は実践現場と実践の特性が混合するが「国内」「海外」「ユネスコ」「アプローチ」「その他」の 5 分類が設定できた。「ボランティア」のサブカテゴリー「ハンドブック」は作成者別（行政/市民）、対象別（保護者/支援者）、内容別（就学支援/生活支援）に分類でき、「教材」は「絵本や歌」「日本語教材」「母語の教材」「(多言語による)教科教材」「文化紹介」「教材作成の支援」「教材リスト」「その他」に、「組織・機関」は「自助グループ」「ボランティアによる支援グループ」「研究機関による支援プロジェクト」「その他」の項目を立てることができた。

今後、項目の上に示されているタグをうまく活用する、項目タイトル内に指標を加える等の工夫によって、情報を活用しやすくし「ハーモニカ」の使いやすさを向上できると考える。開発の課題としては、ユーザーからの評価を得て改良する、ユーザーからの情報を反映する仕組みを作る、保育や学校教育で活用している情報源の中に組み込まれるよう働きかける、等があげられる。

注)

- 1) 「OBC/DRA」は JSL のための評価法<sup>ディーエルエー</sup>DLA（文部科学省、2014）の原型となったインタビューによる子どもの会話および読解力の評価法で、2009～13年に11回の指導者養成ワークショップを行った。テキストとして次を使用している。中島和子編著（2015）『バイリンガル会話力の三面評価—OBC 実践ガイド—』(OBC ワークショップ運営委員会)、中島和子・櫻井千穂（2012）『対話型読書力評価』(平成 21-23 年度科学研究費補助金基盤研究(B)、(研究代表者中島和子))。
- 2) ヴィルマ・レイモンド(2013)「子育てにおける家庭言語の保持 —カナダ・オンタリオ州トロントの移民家庭に対する 支援の実践—」『ICU 教育研究 55』 pp.173-177 に詳述されている。

### 引用文献

Cummins J. (2001) *Negotiating Identities: Education for Empowerment in a Diverse Society*, 2nd edition, California Association for Bilingual Education

鈴木庸子 (2012) 「カナダと日本におけるオンライン情報の比較—多言語環境の子育てを支援するポータルサイトの構築をめざして—」『CASTEL-J in 名古屋 2012 年 8 月予稿集』

鈴木庸子 (2015) 「CLD 児の言語育成支援ポータルサイト「ハーモニカ」の開発」『日本語教育方法研究会誌』日本語教育方法研究会、pp.44-45

鈴木庸子 (2016) 「7.3.3 国内の外国人生徒の支援者への情報提供と共有：ポータルサイト「ハーモニカ」の開発」中山実・鈴木克明編著 (2016) 『職業人教育と教育工学』「第 7 章第 3 節日本語教師養成・支援における教育工学の知見・視点の活用—実践事例」ミネルヴァ書房 pp.148-151

**付記：**ポータルサイト「ハーモニカ」の開発は平成 25-27 年度科研費（基盤 C）「複数言語環境における子どもの言語習得支援ポータルサイトの開発と運用に関する研究」（鈴木庸子）の助成によるものです。開発に協力していただいた多くの方々に深く感謝申し上げます。